



われら那高生！(Vol.1)

☆真・善・美☆

★和歌山県立那賀高等学校★

1 令和4年度新着任の先生方

今年度、新たにお迎えする先生方をご紹介します。

国語	中前登志(なかまえ とし)先生	()は前任校
国語	谷地敬子(たにじ きょうこ)先生	(和歌山北高等学校北校舎)
社会	山崎康平(やまさき こうへい)先生	(和歌山東高等学校)
数学	福田和彦(ふくだ かずひこ)先生	(和歌山北高等学校北校舎)
数学	今田信彰(いまだ のぶあき)先生	((県)教育支援課)
理科	藤田義人(ふじた よしと)先生	(田辺高等学校)
英語	小阪直也(こさか なおや)先生	(向陽高等学校)
英語	山本佐知(やまもと さち)先生	(田辺高等学校)
英語	笹井道信(ささい みちのぶ)先生	(県和歌山商業高等学校)
保健体育	谷早織(たに さおり)先生	(大阪府立富田林高等学校)
保健体育	洞将展(ほら まさのぶ)先生	(今年度より復帰)
保健体育	玉出慎(たまで しん)先生	((県)スポーツ課)
養護	橋本麻衣(はしもと まい)先生	((県)県立学校教育課)
		(富山県立となみ総合支援学校)

2 令和4年度始業式を迎えて

春らしい季節がやってきました。清少納言は『枕草子』で日本の春の情景を「春はあけぼの やうやう白くなりゆく山際少し明かりて 紫だちたる雲の細くたなびきたる」と綴っています。日本の四季・自然はどの時代、どの場面においても泰然自若としていて何と偉大だなと感じています。

今日から令和4年度がスタートします。私にとっては那賀高校での2年目を迎えることになりました。

昨年度の卒業式で卒業生の皆さんに、那賀高校に着任して何が良かったかと考えた時、生徒個々のポテンシャルが高く、相手を思い遣る気持ちを持った心根の優しい皆さんに出会えたことが何よりの財産になりましたと伝えました。皆さんに対しての思いも同様です。新学期を迎えるにあたり、是非、良いところを伸ばしつつ、様々なことにチャレンジして、自分自身をワンステップ高見にレベルアップしてってください。4月5日の離任式の折に、離任される先生方から「目先に囚われて目標を見失うな」「失敗を恐れるな」「最後まで諦めるな」と激励の言葉をいただきました。そのことを思い出して、それぞれが目標を持ってしっかり取り組んでください。

今年度、那賀高校はめでたく学校創立百周年の大きな節目の年を迎えます。10月23日(日)には記念式典が予定されています。この記念すべき年に那賀高校に在籍していることを改めて自覚し、是非、皆さん一人一人が何らかの形で百周年の記念すべき年に携わって欲しいと願っています。

これから皆さんに意識して取り組んで欲しいことを2つ伝えます。

1つ目は、「チーム」と「リスペクト」です。

本校は学習活動はもちろん、学校行事、クラブ活動、ボランティア活動など学校における様々な事柄を経験することで、自ら鍛え、成長しながら人間力を培い、将来地域社会のリーダーとして貢献できる人材として巣立っていくことを想定して諸活動を進めています。一人一人がその自覚を持って互いを「リスペクト」しながら、それぞれの活動において「良いチームづくり」をしていてください。それぞれが取り組み、積み上げていった達成感をみんなで分かち合い、その思いを心に刻んでいて欲しいと願っています。

2つ目は、新型コロナウイルス感染症に対する心構えです。

昨年度を振り返ると、やはりコロナ禍に翻弄された1年になりました。伝統ある文化祭が中止に、その他の行事も通常通りには行えませんでした。リモートによる国際交流は行えたものの、本来の国際交流の場は滞っている状況です。

コロナ禍は、今年度も引き続き様々な場面で影響を及ぼす存在となるでしょう。さらに、追い打ちをかけるようにオミクロンの変異株“BA.2”が県内でも検出され、既に第七波が来ているとも言われています。

つまり、いつ、誰が感染してもおかしくない状況は続いています。毎日の健康観察、マスク着用やソーシャルディスタンス、校内外での人との会話の仕方など基本的な感染症対策を怠らないことが基本です。それでも陽性になってしまうと、感染した人だけでなく周囲の人にも影響を及ぼし、場合によってはクラスターを引き起こすことになりかねません。感染が広がると、やりたいことがすべてストップしてしまうことになります。くれぐれも面倒がらずに意識を高めて実行していきましょう。皆さんの行動一つ一つにかかっています。

このような困難な状況にあっても、少しでも通常の状態に戻して、今年度こそはの意気込みを持って邁進していきたいと思っています。皆さんには「今、何ができるか」を工夫しながら、「自ら学び鍛える那高生」「地域に貢献する那高生」を体現化していてくれることを望みます。

今年度の君たちの活躍に期待するとともに、先輩として新入生を上手に迎え入れてあげてください。